

三宅島の現状（その23）

平成14年1月25日
現地災害対策本部（三宅島）

【気象及び火山活動の状況】

年が明けて高気圧に覆われて晴れの天気が続くようになりましたが、西風が強く、海上は波・うねりの高い日が多くなっています。このため、はまゆう丸の欠航や繰り上げ出港も多くなり、運航しても波・うねりの影響を受けながらの、長時間の航海になります。こうした悪条件の中、作業関係者は船の揺れに辛い思いをしながらも頑張っています。

山頂直下の地震活動は低い状態で、時折振幅の大きな火山性微振動が発生していた程度の状況が続いていましたが、1月23日12時34分頃小規模な噴火があり、風下の島の東部地域で少量の降灰が確認されました。その後は、空振、微動などの状況に大きな変化は無く、火山活動は落ち着いている状況です。

二酸化硫黄（SO₂）の放出量は、9日、15日の観測では1万トン以下でしたが、18日には23,000～30,000トンが観測されました。最新の23日には11,000トンでした。SO₂の濃度も、西風の影響により三池地区で3～6ppmの高い濃度が連日観測されています。このため、三宅島での船の乗り降り時には全員がガスマスクを装着することが多くなっています。

【復旧作業の再開】

昨年12月25日に引き上げてから2週間ぶりの1月11日から復旧作業を再開しています。以来、滞在者による作業は順調に進んでいますが、船舶の就航率が悪く、通いの作業や資器材の搬入に影響が出ており、工夫とやりくりをしながらの苦しい作業となっています。

屋根の修繕ですが、昨年末までに約70棟の屋根について応急のシート貼りを完了しましたが、年明けから引き続き、本格的な補修工事に着手しています。

【クリーンハウスの整備】

脱硫装置を備えた施設（クリーンハウス）が新たに増えました。ふるさと館（阿古地区）の隣接地に95人収容可能な1棟が完成し、1月25日より滞在を開始しました。また、三池港の船客待合所の一部も脱硫化されました。これにより、これまで完成したクリーンハウスは全部で12棟（既存建物の改修を含む）となり、約480人の滞在が可能となりました。復旧作業がより効率的に行えるものと期待されます。

【報道機関による現地取材】

1月29日現地取材が行われる予定です。テレビ、新聞等で島の様子をご覧ください。

【就労情報】

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村村民課避難対策係（代表03-5321-1111 内線45-642）にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

（アドレス <http://www.miyakemura.com>）

問い合わせ先 三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854

平成14年1月29日
東京都三宅村

三宅村復興計画策定委員会の開催について

三宅村では第1回目の復興計画策定委員会を下記のとおり開催いたしました。

記

1 日 時

平成14年1月29日(火) 午後1時30分から午後5時00分まで

2 場 所

東京都庁第二本庁舎1階ホール

3 三宅村復興計画策定委員会の目的

村長の諮問委員会であり、噴火災害からの早期復興を図るために三宅村の復興事業に関する意見等を提言し、三宅村復興基本計画の策定を行う。

4 委員構成

学識経験者、三宅村議会議員、三宅村経済団体関係者、三宅村行政機関職員等により委員を構成する。

5 今後のスケジュール(予定)

- ・平成14年3月中 三宅村の復興に関する基本的な構想を提言
- ・平成14年夏 復興基本構想及び復興基本計画を策定

6 その他

※議事内容については、後日文書にて周知いたします。

問合せ先

三宅村災害復興室復興計画担当課

担当 池田・榎本・菊池

03-5320-7826(直通)

45-621(都庁内線)

三宅村復興計画策定委員会委員構成


平成14年1月29日

(順不同)

氏名	フリガナ	性別	役職名等
◎林 春 男	ハヤシ ハルオ	男	京都大学教授
笹 井 洋 一	ササイ ヨウイチ	男	東京都防災専門員
重 川 希志依	シガワ キシエ	女	富士常葉大学助教授
浅 沼 功一郎	アサマ コウイチロウ	男	三宅村議会議員
浅 沼 徳 廣	アサマ ノリヒロ	男	三宅村議会議員
佐久間 達 己	サカマ ツミ	男	三宅村議会議員
青 沼 宣 行	アサマ ノブユキ	男	三宅村農業委員会委員
奥 山 彦 一	オヤマ ヒロイチ	男	J A東京島しょ理事
上 松 幸 男	ウエマツ ユキオ	男	三宅島観光協会会長
浅 沼 基	アサマ モトイ	男	三宅村商工会副会長
沖 山 邦 男	オキヤマ クニオ	男	三宅島漁業協同組合組合長
佐久間 啓 徳	サカマ ヒロノリ	男	三宅島建設業協会会長
守 屋 廣 次	モリヤ ヒロジ	男	三宅村森林組合
野 口 精一郎	ノグチ セイイチロウ	男	東海汽船(株)取締役業務部長
関 森 俊 明	セキモリ トシアキ	男	(株)JTB東日本仕入販売部地域担当部長
鈴 木 清	スズキ キヨシ	男	東京都島嶼町村会事務局長
小 島 明 将	コジマ アキマサ	男	(株)日本レジャースポーツ振興協会常務理事
佐 藤 徳 茂	サトウ ノリシゲ	男	(財)島しょ振興公社事務局長
林 盛 幸	ハヤシ モリユキ	男	三宅島PTA連合会副会長
宮 下 雪 子	ミヤシタ ユキコ	女	三宅村在宅介護支援センター相談員
福 澤 信 哉	フクザワ シンヤ	男	伊豆地区自治会長
浅 沼 洋	アサマ ヒロシ	男	坪田地区自治会長
野 村 忠 司	ノムラ タダシ	男	三宅村助役

◎は委員長

計 23 名

 変わります ご注意ください

戸籍〈謄本・抄本〉等申請及び発行

平成14年2月12日（月）からは戸籍に係わる各証明（戸籍・除籍・改製原戸籍謄抄本・身分証明書・附票等）について下記のように発行場所（事務所）が変更となります。

平成14年2月8日（金）まで	平成14年2月12日（月）からは
<u>三宅村東京事務所にて申請及び発行</u> * 戸籍謄抄本等は東京事務所の窓口で即日受け取れます。	<u>三宅村新宿総合事務所にて申請及び発行</u> * 戸籍謄抄本等は新宿総合事務所の窓口で即日受け取れます。
三宅村新宿総合事務所 申請受付 三宅村立川事務所 申請受付 * 戸籍謄抄本等の発行は東京事務所から郵送となります。	三宅村東京事務所 申請受付 三宅村立川事務所 申請受付 * 戸籍謄抄本等の発行は新宿総合事務所から郵送となります。
住民票・印鑑証明及び印鑑登録は今までどおりに “三宅村新宿総合事務所” “三宅村東京事務所” “三宅村立川事務所” の各事務所で発行します。	

* ご不明の場合は予め電話等にてお問い合わせをお願い致します。

問い合わせ先 三宅村新宿総合事務所 村民課 住民係 ☎03-5320-7828

三宅村東京事務所 村民課 住民係 ☎03-3435-7141

郵送による申請（請求）について

戸籍謄抄本等は郵送でも請求できます。郵送での請求方法は下記のとおりです。

便箋等（白い紙）に、①本籍地②筆頭者の名前③請求戸籍の種類（戸籍・除籍・改製原戸籍）④謄抄本の別（抄本の場合は必要な方の名前）⑤請求の数⑥請求者の住所・氏名⑦請求者の電話番号⑧必要戸籍と請求者の関係（場合によってはこちらから使用目的や提出先を確認したり交付できない場合もあります）を記入し返信用封筒に切手を貼り、返信先をご自分で記入し同封して下さい。手数料につきましては戸籍謄本・抄本は1通¥450円、除籍・改製原戸籍は1通¥750円となっておりますので、郵便小為替にて同封して下さい。

*郵便小為替は、郵便局の窓口で現金を郵便小為替に替えてくれます。

申請書（請求書）の送付先は次のとおりとなります。

平成14年2月8日（金）まで	平成14年2月12日（月）からは
三宅村東京事務所村民課住民係に上記の必要事項を書いて送付して下さい。	三宅村新宿総合事務所村民課住民係に上記の必要事項を書いて送付して下さい。

被災者再建支援金支給申請について

支援金申請はお済みですか？

被災者再建支援制度に基づく被災者再建支援金支給申請については、申請期限が平成14年3月31日までとなっています。

特別経費申請がまだお済みでない方は、手続きに時間がかかりますので2月中に手続きを行って下さい。

(特別経費の対象となる物品)

物 品	物品1点あたりの 支給限度額 (円)	支給の対象となる数量等
ルームエアコン	185,000	ルームエアコン、ストーブ、電気ごたつ、電気カーベットのうち合計2台まで。ただし、ルームエアコンは、1台に限ります。ストーブは、石油、ガス、電気を燃料とするストーブ又はファンヒーターが対象となります。
ストーブ(温風機を含む)	50,000	
電気ごたつ	35,000	
電気カーベツト	35,000	
防寒服	85,000	世帯に属する者の数
ベビーベッド	50,000	世帯に属する乳幼児の数
うば車 (ベビーカー)	55,000	
学生服	40,000	小学校、中学校、中等教育学校、高等学校、高等専門学校、高等専修学校、養護学校、聾学校、盲学校に就学している者の数
学習机	85,000	
眼鏡	45,000	
コンタクトレンズ	45,000	
補聴器	140,000	
その他の医療用具又は福祉用具		

申請用紙のない方や、ご不明な点などございましたら下記事務所担当者までお問い合わせ下さい。

申請先・・・三宅村新宿総合事務所 村民課 避難対策係
担当 杉本・沖山・北川

連絡先 TEL 03-5320-7838
内線 (45-650)

平成14年1月

**「三宅島被災動物の飼い主の集まり」で村が示した被災動物の
今後のあり方に係る方向性について**

今年1月12日（土）に標記集まりを開催し、その席上で村から今後の被災動物のあり方に係る方向性を示させていただきましたので、ご報告いたします。

記

1. 日 時：平成14年1月12日（土）午後1時30分
2. 会 場：都庁内 2庁ホール
3. 出席飼い主：29人（他、家族等数人）
4. 出席した関係機関：（1）三宅島噴火災害動物救援本部救援センター長
（財）日本動物愛護協会理事 会田 保彦 氏
（2）三宅島被災動物飼い主の会
会長 森下 譲 氏（他、役員数名）
（3）三宅村保健福祉課
課長 佐久間 忠（他、担当職員）
5. 内 容：避難生活が1年4ヶ月を経過し、さらに長期化することが想定される現在の状況において、以前から専門家などのご提言を含めて飼い主各位にお話しさせていただきましたが、「動物の立場に立った決断をしていただく時期が到来した。」ということを述べさせていただきました。
「動物たちのことを第一に考え、新たな飼い主に動物たちを幸せに
してもらう方法を選択することが最良である。」と村としては判断しておりますので、飼い主各位のご理解をお願いいたします。

**三宅島噴火災害動物救援センター等に収容している
動物たちの近況について**

避難生活が1年4ヶ月余り経過し、さらに長期化することが想定される避難生活において、動物たちは標記救援センター等で救援本部の方々の多大なご努力によって、十分なケアをされておりますことは、当該飼い主をはじめ住民の皆様にご理解いただいているところと存じます。

しかしながら、長期にわたり飼い主から引き離されていることなどによるストレスで、動物たちがお世話いただいているボランティアにかみつくなど、これまで見られなかった問題行動をおこす事例も生じており、現在の収容方法は限界に達していると言わざるを得ない状況にあります。

動物は、飼い主とともにいることが最も幸せであり、救援本部の方々がいかに努力をし、ケアをしようとも飼い主に勝るものとはなりません。今後ますます、動物たちの状況が悪化していくことは、疑いのないところです。

動物たちがこのような状況にあることを、飼い主として理解し、飼い主の責任を果たしていただくには、施設からの開放であると考えます。

つきましては、「施設に長期収容している動物の飼い主」に対しまして、今後早期に「里親」に出すための書類を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

三宅村新宿総合事務所保健福祉課保健係 電話03-5320-7827

(参考)

三宅島噴火災害動物救援本部 電話03-3475-1701

三宅島噴火災害動物救援センター 電話042-587-0546

園芸技術センター情報（平成14年1月）

東京都農業試験場三宅島園芸技術センター

寒さ厳しい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。

園芸技術センターでは、島民のみなさまに、当センターで行っている試験の内容などをお知らせしたく、「園芸技術センター情報」を発行することにいたしました。

試験研究関連

昨年3月に開催しました研究発表会では、火山灰の成分分析および灰を混和した土壌におけるレザーファン、アシタバ、野菜類の生育などについて報告しました。

現在も、これらの試験は東京都農業試験場（立川）と江戸川分場で継続しています。

また降灰から長期間経過しているため、灰が堆積した下の農地の状態を想定した土壌における栽培試験も行っています。さらに大量の灰や泥流におおわれた場所を前提に、客土を考えた試験も始めました。

これらの試験の詳細な結果は研究発表会などで報告したいと思っております。

島内農地土壌調査

降灰、堆積から月日が経過したため、降灰当初とは状況が変化し、農地土壌の悪化が心配されます。そこで当センターでは灰が堆積している農地土壌と火山灰の成分を分析するため、昨年5月、三宅支庁、村役場とともに三宅島に渡り、土と灰を14カ所、採取してきました（分析は農業試験場土壌肥料研究室）。

少量の灰が堆積している農地では、灰および土壌中には多量の無機成分が含まれず、流失したと思われます。しかし大量の灰が堆積している農地では、多量の無機成分が灰の中に残っていました。また、その下の土壌には多量の無機成分が流れ込み始めている状況がみられていますので、調査を続ける必要があります（6ヶ月ごとの調査を予定）。

第2回目の調査は昨年の11月に行いました。結果は今春3月ごろになります。

農作物定点生育調査

島内15カ所、レザーファン・アシタバ・タマシダ・サトイモ・サカキの5種類について、10月から調査を始めました。毎月1回の予定で調査を続けます。

10月から12月の3回の調査で、心配なことが3つあります。サトイモの多くは生育がきわめて悪く、親イモ(?)は枯死し、芽が20~30cm出ていた子イモの下部は腐敗していました。去年の夏、三宅島の降雨は非常に少なく、気温も高く推移したためと思います。しかし伊豆地区では、樹木の多い、窪地の畑のイモは順調な生育をしていました。

つぎはタマシダですが、灰が大量に堆積したり、泥流が流れ込んだ形跡もないのに、ほとんどの株が根まで枯れています。詳しい原因は不明です。

このサトイモとタマシダについては、春まで慎重に観察を続ける予定です。

つぎは、タケが庭や畑に繁茂し、レザーファンなどのハウスの中まで侵入しはじめています。12月、三宅島に行った時、簡単な方法による除草剤の処理試験を4ヶ所で行って始めました。今春以降に結果が出ると思います。

以上で、簡単ですが、報告を終わらせていただきます。

なお、ご意見、ご質問がございましたら、下記までよろしくお願いします。

東京都農業試験場 内 三宅島園芸技術センター

野呂・矢沢

東京都農業試験場

東京都立川市富士見町3-8-1

TEL 042-524-3191

ユリ・チューリップの花を楽しみに

1月8日午後、神奈川県立中央農業高等学校の2年生の生徒7人が松山先生に引率され、球根持参で来場。ユリ、チューリップなどの球根を植えてくれました。

生徒達は先生の指導のもと、植える場所や花の種類、色などの組み合わせについて互いに話し合いながら作業を進めていました。



春暖かくなったら、緑の芽を出し、ピンク、黄、白色など色とりどりのユリやチューリップの花が楽しめることでしょう。

また、球根の植付が終わってから、学校の温室で育てたガーベラとスイートピーなどを使って約60cmもの大きな盛花を作ってプレゼントしてくれました。



農場点描



防寒対策で覆った落ち葉から顔を出すアスタバの若芽。しかし寒さのため、これ以上はなかなか育ちません。



昨年12月21日の初雪で、早くも雪化粧となりました。

来場者紹介 - 次の方々が遠路のところ当農場を訪ねて下さいました -

【見学等】

- ・三宅島警察署次長 吉田良栄さん 外6名
- ・現阿古駐在所(警察官)西島孝さん
- ・東京福祉専門学校 佐藤利香さん外2名
- ・東邦大学医療短期大学看護学科 長島浩子さん 外4名
- ・神奈川県立中央農業高等学校 生徒7名・教諭1名
- ・奥住さん(三宅児童・生徒支援センター)

【取材】

- ・朝日新聞青梅支局
- ・読売新聞八王子支局

(順不同)

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
 所在地 八王子市宇津木町236-1
 Tel&Fax: 0426-27-4355
 e-mail: genki-farm@nifty.com

年頭に当たって

明けましておめでとうございます。

噴火災害による避難から二度目の正月でした。今日もなお帰島の見通しは立ちません。経済的にも精神的にも極限に近い厳しい毎日とお察し申し上げます。

この様な状況の中で、就労対策の現場「げんき農場」から新年のご報告をさせていただきます。

年明けの当農場は、昨年十月から就労している総勢五十一名の後期の人たちにより、秋の収穫も終わり、種芋の越冬管理、アシタバ畑の防寒管理、収穫物の加工、圃場の区画整備等、八王子の寒さに追われる毎日です。これからの二ヶ月間で春の播種・植付が適期に実施出来る様に整備を行い、色々な苗作りもハウスの中で早めに育苗しておきたいと、みんなで頑張っております。

新しい年を迎え「げんき農場」の開設目的を再確認しながら、更に心を引き締め、就労対策の拠点、みんなの財産、楽しい交流の場、その他諸々を大切にしたいと考えております。

最近の情報では避難生活もまだまだ長引くような状況です。しかしこの苦境に負けないで、どんなに苦しくとも克服して「必ず三宅島に帰る」この決意を持ち続けましょう。げんき農場で皆さんを待っております。

農場長 奥山 彦一

北島三郎さん宅を訪問

年の瀬も迫った12月20日、昼食後の休憩時間を利用して、げんき農場の女性の皆さん10人が歌手の北島三郎さん宅を訪問しました。

北島さんは不在でしたが、奥さん自ら玄関に出迎えてくれ、終始明るく対応して下さいました。特に避難している三宅島の人達の生活にも色々とお気配りをして頂き、小春日和の穏やかな陽射しの下で場員と一緒に気さくに写真に収まってくれました。

帰りにはお土産まで頂戴し、心からのおもてなしとお人柄に感心して帰ってきました。

なお、奥さんは『近いうちに、暖かい日を見て主人と一緒に農場に伺いたい』と話していました。お楽しみに！！



【奥さん(前列真中)を囲んで記念撮影】

警察署員の皆さんと懇談会を行いました

1月7日(月)昼食後の休憩時間を利用して三宅島警察署の皆さんと懇談会を持ちました。当日は吉田次長さんほか、坪田・伊豆・伊ヶ谷各地区の駐在所警察官を含めた5人がお出でになり、警察署で撮影した最近の島の現状写真の回覧と、治安状況や復興工事の進捗状況等についての説明を頂いた後、続いて質疑に入りました。

「昨年11月の一時帰島以来情報が途絶えがちで、その後の自宅や残してきた家具・調度類はどうなっているか心配だ。是非知りたい」との要望が多く出ました。そのほか、次のような質問・要望事項がありました。

- ・警察署で写した家ごとの状況写真を各避難地区ごとに貸し出して見せて欲しい。
- ・雨漏りなど、家の被害状況を調べるための一時帰島は出来ないか。
- ・盗難被害の捜査状況はどうなっているか知りたい。

など色々な照会・要望がありました。これらについて署員からはそれぞれの事項ごとに親切な回答があり、限られた短い時間でしたが有意義な連絡会でした。



なお、三宅島警察署では、要望があれば今回のような連絡会を各地域の避難先でも行いたいとのことでした。

お問い合わせは、
「三宅島警察署・東京連絡室(警視庁内)」
電話03-3581-4321(代表)まで。

場員の声

「寒さに負けず」



沖山 治子
(八王子市上柚木在住:阿古)

月日の経つのは早いもので、三宅島から八王子市の上柚木団地に住まわせて頂いてから二回目のお正月を迎えてしまいました。毎朝起きて茶の間から外を眺めると、富士山がとてもきれいにできて気持ちが和みます。肌に突き刺さる様な寒さの中で、富士山も雪に覆われて真っ白になりました。

私は朝早く起きて寒さもとわず頑張ってげんき農場に働きに行っておりますが、お蔭様で病気もせず元気に畑仕事が出来き、本当に幸せだと思っています。

三宅島に帰りたくても帰れない、淋しさ、せつなさ！！
でもこれは仕方のないことです。今、私には「げんき農場」があります。大勢の皆さんに支えてもらいながら、健康に注意して三月一杯頑張っ行ってきたいと思っています。皆さん、よろしくお願ひいたします。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅島のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることが出来ます。こちらでは掲載写真がカラーで閲覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス -> http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

雨の日に...「一言づつ」

久しぶりの雨の日のひと時、女性の皆さんの話の輪に入れてもらい、普段の生活や農場の感想をお聞きました。

腰痛で足が不自由なので多少の不自由さはありますが、自分の家に閉じ籠っているよりも気分的にも体にも大変良かったと思っています。

げんき農場の周囲は丘や坂。小宮公園の林や牧草畑などを見ていると島にいるような気分になって、働きに来て本当に良かったと思っています。

島では自由に海や山に行けたけど、団地の暮らしには季節感が少なく、味気のない毎日でした。げんき農場に来たことによって島の人々に会い、三宅島を思い出しながら充実した日を送っています。

秋川の小学生が書いた作文の中の「がまん」と言う言葉にたく感動しました。思わず私の日頃の行いや考え方などを思い返してみました。人に対する思いやりの心が大切だと思います。



農場わきの道を歩くこちらの住民の方から『おはようございます』『こんにちは』と声を掛けて頂いています。ちょっとした心使いですが、声を掛けてもらうと心が明るくなりますネ。

三宅島には一日も早く帰りたいですが、このままでは帰ってからのことが心配です。不安になりますネ。

三宅島にいたら知り合う機会のなかった人たちと知り合うことが出来、親しくなれて良かったです。気持ちも豊かになり幅も出来たと思っています。先日テレビで、椿の花が咲く風景、海の白波の立っている様子、そして東海汽船のコンテナの並んでいるところなどが写っていました。島と自然を思い浮かべて懐かしくなりました。

島を思い起こさせてくれた里芋畑も収穫を終え、辺りも冬景色に変わって急に寂しくなりました。春の芽吹きが待ち遠しいこの頃です。

私の家の近くに、登校途中『おはようございます、行ってきます』と声を掛けてくれる爽やかな学童がいて、いつも感心しています。

沖山運転手さん、渡辺運転手さんには、朝早くから、また夕方八王子市内の混雑の中を二往復つづバスを運行して頂いてます。特に、ひよどり山の乗り場は狭く曲がりくねっていて、朝などは対向車も多く、運転手さんはその都度神経を使って苦労しているようです。仕事とは言いえ本当にご苦労様です。

出演者：白井久子、菊地玉枝、浅沼正子、前田せつ子、森下みどり、杉本起代、高田美代子、奥山美智子、浅沼妙子 (順不同・敬称略)

小笠原ミドリ (東大和市在住:坪田)

- ・雀たち 早よ去ね峠へ 夜は寒い
- ・春夜空 干し物しつゝ 三宅想う
- ・帰りたき 心は富士の 山よりも
- ・生きている 証ぞうれし 今朝の冷え
- ・散策の 人々の笑顔に 救われる
- ・紅椿 賞でる人なくて 二春が
- ・春の除草 草は氷の塊に
- ・除草する 手鍬はねかえす 冴えし音
- ・農場の昼 粗食なれども 美味にして
- ・心地よき つかれに眠れる 日々多く
- ・大地上げし 霜に負けまい 今日又